

平成29年度保護者に対する調査の結果を活用した 効果的な学校等の取組に関する調査研究

平成30年度「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」(お茶の水女子大学)

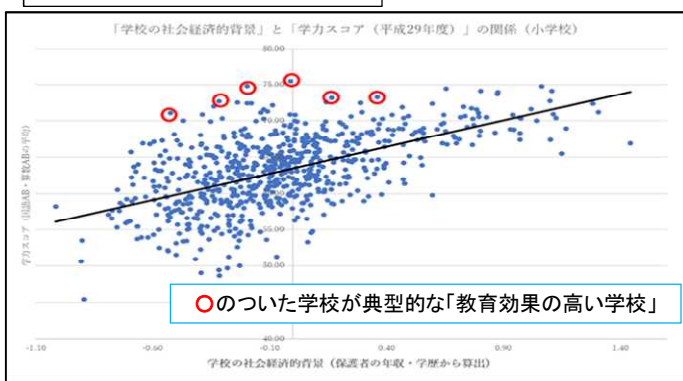
目的:

- ◆ 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果と保護者に対する調査をもとに、家庭の社会経済的背景を踏まえた上で、学校における効果的な指導方法や教育委員会の取組に関する分析を行う。
- ◆ 特に、学力向上に高い成果を上げている学校であり、かつ、校内格差を克服している学校、および近年成果を上げつつある学校の取組事例を収集し、その具体的な特徴を明らかにする。

1. 「成果が上がっている学校」の抽出 (小学校9校[うち、大都市から5校]、中学校5校[うち、大都市から2校])

- ・「教育効果の高い学校」→学校が置かれた社会経済的背景から推計される学力を大きく上回っている学校
- ・「校内格差を克服している学校」→SESの高低、通塾の有無にかかわらず、一定の通過率を達成している学校
- ・「教育効果の高い学校」かつ「校内格差を克服している学校」=「成果が上がっている学校」

「教育効果の高い学校」の抽出方法



「校内格差を克服している学校」の抽出方法

下表は、校内の児童生徒をSES、通塾の各カテゴリーに分け、当該校の児童生徒の通過率を示したものである。通過率とは、全国の平均正答率よりも少し低い「基準点」を上回った子供の割合である。全カテゴリーで60%以上の通過率を示した学校を「校内格差を克服している学校」とした。下の例ではB校が「校内格差を克服している学校」に該当する。

通過率	SES		通塾	
	高	低	通塾	非通塾
A校	70.0%	50.0%	70.0%	50.0%
B校	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%

2. 事例調査 I : 「**成果が上がっている学校**」の取組

小学校

特別支援の視点を入れた学校づくり

関わり合いや学び合いを重視した授業づくり

多様な支援員の配置と活用

若い教員の授業力向上、チーム学校の仕組みづくり、校長を中心とした信頼関係づくり

小中連携、安定した地域に根ざす世代を超えたコミュニティづくり

中学校

特別活動を中心とした教科外領域の指導の重視

習熟度別指導を導入しない少人数指導

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの積極的な活用

教科を限定しない校内研究のテーマ設定(教科を越境する)

校内研究や研修レベルでの小中一貫あるいは連携の取り組みの充実(校種を越境する)

3. 事例調査 II : 「**成果が上がりつつある学校**」の取組 (中学校2校[うち、大都市から1校])

- ・かつては学力面で大きな課題を抱えていたが、そこから這い上がることができた学校の事例
- ・校長のリーダーシップ
- ・教育委員会による強力な支援体制
- ・学習指導以前の問題への対処
- ・環境整備
- ・学習指導の特徴

4. 統計的分析と事例調査の知見の統合: **効果的な学校等の取組**

- (1)カリキュラム・マネジメント:教育課程の編成・実施・評価・改善のPDCAサイクルが実施されている
- (2)教員が特別支援教育や外国人児童教育について理解し、児童生徒の多様性に応じた「誰にとってもわかりやすい」指導を行っている
- (3)真の個に応じたきめ細かい指導の実質化、オーセンティックな指導が行われている
- (4)アウトプット重視の指導:言語活動を中心に「教科を超えた取り組み」「学校全体での取組」が行われている
- (5)校種を越境した(小中、幼小中)、教員研修や校内研究、実践共有が充実している
- (6)地域による学校支援が充実しているとともに、学校・子供が地域に貢献する姿勢がある